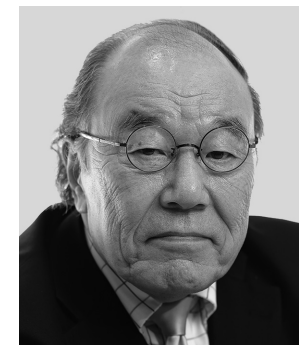


◆経済倶楽部講演会第4511回（10月4日）

首相交代後の政治を読む

—ポスト岸田の新政権とこれからの日本

ノンフィクション作家、評論家
塩田 潮



- *新しい表紙としての石破氏の登場
- *石破氏の政治姿勢について
- *組閣では挙党体制に失敗
- *当面の課題はサイバー安全保障への対応
- *ガタつく自公関係の行方について
- *最近の立憲民主、維新の会をどう見るか
- *石破氏と野田氏の「地下水脈」
- *自民党単独過半数割れで起こること
- *政治決戦の本番は来年の参議院選挙
- *派閥政治は国民の意識から遊離

山縣 それでは開会いたします。（拍手）

今日の講師をご紹介します。塩田潮先生に来ていただきました。今回、石破内閣発足が10月1日、それから所信表明演説をしている段階になり、今月中に解散総選挙が行われるということになりまして、10月が非常に激しい激動の月になります。そこに絶妙のタイミングで塩田先生に来ていただくことができました。

今日、皆さんにお配りしております資料の中に、コピーですけれども「ひと烈風録」というのがあります。これは、実は今も続いている連載で、今週の『週刊東洋経済』にもこの「烈風録」の連載がありますが、この第1回を塩田先生に書いていただいて、そのテーマが石破茂さんでした。石破茂さんについて、たぶんお読み

になるとわかりますけれども、これは10年前前の記事ですけれども、今読んでもまったく古びていないといえますか、非常に参考になることが書かれておりますので、ぜひお読みになってください。

それからもう一つ、9月30日、政権発足直前でございますが、東洋経済オンラインに、やはり塩田先生に原稿を書いていたということ、「石破茂氏に捨て駒としての価値を見た自民の冷徹」というタイトルの記事が出ております。

これは9月30日の11時に配信になりました、1日で10万ページビューという、ちょっとこういう記事にしたら珍しい非常に大きなページビューがあつて視聴率が高かつたんです。この内